

表 1. 実態調査報告書ごとの項目の整理

発行主体『資料名』(発行年)	1. 調査・研究目的	2. 評価の定義・説明	3. 調査方法／対象
日本図書館協会『図書館における自己点検・評価等のあり方に関する調査研究報告書』(2003)	今後の図書館振興のための参考資料とすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や目標の達成状況を表現するもの</li> <li>・図書館の活動の目的や目標は、個々の図書館の状況により異なるため、貸出数や登録者数の多寡による単純な評価は意味がないことがある。</li> </ul>	住民調査としての質問紙調査／貸出活動上位の公立図書館から選出した3図書館の地域住民
日本図書館協会『「図書館における自己点検・評価等のあり方に関する調査研究」報告書』(2004)	アウトカム指標のひとつである「利用者満足度」を測定する際の技術的な問題に関する実証的な知見を得ること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館評価の近年の動向として、アウトカム測定への注目がある。その代表的な指標としてISO11620 (JIS X 0812) で規定された「利用者満足度」がある。</li> </ul>	来館者調査、住民調査としての質問紙調査／前年度の調査と比較して、規模の大きな自治体として選出した3図書館の地域住民
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『図書館及び図書館司書の実態に関する調査研究報告書』(2004)	都道府県や市区町村における図書館振興施策の現状および図書館や図書館司書等の実態について調査し、その課題と方向性について研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使命—ビジョン—計画—実践—評価」という流れの一つの区切り</li> <li>・サービス計画と一体のものであり、自己点検・評価後さらに新しいサービス計画が策定される際のベースとなるもの</li> <li>・説明責任を全うする際にも欠かせない作業</li> </ul>	質問紙調査／都道府県、政令指定都市、市区町村の教育委員会および公立図書館
桑原芳哉『公共図書館評価におけるアウトカム指標』(2008)	行政評価による図書館評価において採用されたアウトカム指標の実態の把握。既往研究の指標との比較から、その問題点を指摘すること。また、公共図書館評価におけるアウトカム指標として適切と考えられる指標の提案を試みること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政評価について、「行政機関の活動を何らかの統一的な視点と手段によって客観的に評価し、その評価結果を行政運営に反映させること」という定義を引用して示している。</li> <li>・事務事業の一つとして図書館が、行政評価の対象となっているものを、行政評価による図書館評価と表している。</li> </ul>	事例調査(各自治体のホームページで公表された評価結果を閲覧し、評価指標を採取)／行政評価の導入率の高い自治体および行政評価について先進的とされる自治体から計205自治体を選出。

みずほ情報総研『図書館の自己評価、外部評価及び運営の状況に関する情報提供の実態調査報告書』（2009）	図書館が行う評価の実態や優れた手法、特長ある手法、運営の状況に関する情報提供の実態について情報を収集・整理し、図書館の自己評価・外部評価に関するガイドライン策定および今後の図書館のあり方検討に資する基礎的資料とすること。	調査における評価の定義は、明確に示されていない。ただし、評価の多様性については、質問紙調査の設問や選択肢などに反映させている。	文献調査、質問紙調査、事例調査(ヒアリング)／[質問紙調査の対象]都道府県立図書館、市区町村立図書館、私立図書館全館。[事例調査の対象]5 都道府県立図書館、6 市区町村立図書館、2 私立図書館
全国公共図書館協議会『公立図書館における評価に関する実態調査報告書』（2009）	図書館評価の全国的な現状を把握し、その問題を析出すること。評価の必要性を感じつつも、その実施を促されて困惑している図書館も少なくない状況においては緊急の課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価自体の多様化</li> <li>・「調査」と「評価」の境界線も常に明確とは限らない。</li> <li>・本調査での「評価」は、調査データに基づき、何らかの比較を試みること(調査もれを回避するために、必要最低限の緩い定義を採用)。比較の例として、前年度との比較、数値目標との比較、他の図書館との比較、何らかの基準との比較</li> </ul>	質問紙調査／全国の公立図書館
全国公共図書館協議会『公立図書館における評価に関する報告書』（2010）	明確に示されていないが、前年度からの継続調査であることから、前段の報告書と同様のものと推察できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの数量的なデータを調査によって収集し、それに基づいて計算された評価指標を何らかの基準と比較すること</li> <li>・評価には様々な種類・方法があるが、上記の評価に調査対象を限定</li> <li>・図書館評価は、学術的な知見を得るための科学的調査ではなく、あくまで業務・サービス改善のための道具</li> </ul>	事例調査／全国 7 地区から評価について 14 館、調査について 2 館
三菱UFJ リサーチ・コンサルティング『図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業』（2010）	利用者の質問紙調査等を通じて自らの業務を評価し、運営の改善を図れるようにするため、評価に携わる職員が手軽に参照できる質問紙調査の手法を検討。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標」と「手段」の関係を階層的・体系的に図式化したロジックツリーを用いた PDS サイクルの中で「See」は、1) ロジックツリーの見直し、2) 利用者アンケートなどによる評価の実施</li> </ul>	ケーススタディ(ロジックツリーの作成、利用者調査としての質問紙調査)／都道府県立図書館、政令指定都市立図書館、市町村立図書館 各 1 館

※報告書内に明確に示されていない場合には、斜字体を用いてその旨を記した。